

紀州の多宝塔を訪ねて-慈眼院-

大井堰御坊 慈眼院の表示



鬱蒼とした木々の中に佇む慈眼院多宝塔



鎌倉時代(1271年)の建立で国宝に指定されている



府指定有形文化財

だいにくらにふらいごぞう

慈眼院 木造 大日如来坐像

昭和五十一年三月三十日指定

多宝塔内に安置されている本尊は、智拳印を結ぶ金剛界大日如来で寄木造、漆箱、彫眼、像高七、三種、浅い彫り、少ない衣紋線、丸顔など藤原時代彫刻の優美さの名残りが見られる。その優美さに量感と緊張感が加わり堂々とした威風に新しい時代の息吹きを感じさせる。写実味のかわった肉取り、一種の固さを持つ表情、広い肩に厚目の胸などから平安時代末から鎌倉初期の製作と推定される

昭和五十九年三月

慈眼院

大阪府教育委員会

近江石山寺の多宝塔、高野山金剛三昧院の多宝塔に次ぐ古い多宝塔とされる/以上の多宝塔三名塔の一つでもある



組物は上層が四手先、下層は二手先となっている



文化財指定を受けている多宝塔としては最小のもの(全高10メートル余り)



明治時代になって金堂脇から移築され、基壇の上に建っている





基壇は明治時代に移築した際に設けたとされ、階段もコンクリート製になってしまっている(土台の足も継ぎ足して高くしてしまっているという)





中央間の板唐戸と両脇間の連子窓/方三間で小規模のため、中央間に比べて脇間が極端に狭くなっている







貫が突き出た木鼻の線型にはハート型の猪目模様が彫られており、大仏様の特徴も見られる



中備として中央間に入る臺股/外枠だけのシンプルなデザインの古式臺股から内部に凝った彫刻が施される中世、近世の臺股への過渡期のデザインで鎌倉時代後期の特徴とされる外枠に中飾りが入ったデザイン







さまざまな石造物が並ぶ



慈眼院金堂/鎌倉時代/重要文化財







こちらは棧唐戸と連子窓









鐘楼もあった



ここは現本堂



RC造である



一部、昔の本堂の材を転用しているようだ







さて、ここはすぐ隣にある日根神社





延喜式内社となっている





拝殿/この奥に本殿がある



前方が日根神社本殿/大阪府指定文化財



豊臣秀頼によって再建されたとされる



桃山様式の本殿





参考ホームページ

<http://www.kokuhoworld.com/089.html>

<http://www.jigenin.or.jp/pages/index.html>

<http://buttoukoi.com/jigenin.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/099/index.html>

<http://www12.plala.or.jp/HOUJI/otera-2/newpage594.htm>

<http://www.geocities.jp/kawai5510/osaka-jigenin.htm>

<http://www.otelife.com/showTemple/summary/pk/64940>

<http://www.cwk.zaq.ne.jp/fkfc901/jigenin.html>

